



蔵内のような

旧深沢村（現世田谷区深沢）の秋山家屋敷内に建っていた土蔵の1つで、穀蔵として使用されていました。1階の柱に打ち付けられていた祈祷札に文政13（1830）年の墨書銘があったことから、江戸時代後期頃に建てられたと推定されます。

解体当時、この土蔵はトタン葺き切妻造りでした。解体時調査から、屋根は茅で葺かれていた事がわかりましたが、形状は不明だったため、解体時の屋根形式を踏襲し、切妻造りの茅葺き屋根としました。

しかしその後の調査から、近隣地域では妻側に屋根を葺き下ろす小屋根を設けた、兜造り風の切妻造りの事例が複数確認されたため、平成26年度の茅葺き屋根葺き替え工事で、より当時の形式に近いと推定される兜造り風の切妻造りに形状を変更しました。

世田谷区指定有形文化財
旧秋山家住宅土蔵
きゆうあきやまけしゆうたくどぞう